

科目名	西洋経済史	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			経済学科	□ 必修	■ 選択
英文表記	Western Economic History	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年		
			開講期間	□ 前期 □ 後期 □ 通年 ■ 集中	
ふりがな	たからほ やすなが	実務家教員担当科目	修得単位	2 単位	
担当者名	高千穂 安長	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	現在の経済システムである資本主義の成立に至る過程を、イギリス産業革命後を主に理解する。				
到達目標	有能な社会人が一般常識として持っている西洋経済の発展過程を把握できる。経済記事をより深く理解し、ある経済行動がどのような帰結を招くかを考えられるようになり、それを自分の意見として表明できるようになる。				
授業概要	世界に先駆けて産業革命を成功させ、パックスブリタニカを実現し、世界の中心国家だったイギリスがなぜ衰退し、アメリカに取って代わられたのかをメインのテーマとして経済学、経営学の視点から考察していく。				
授業計画					
第1回	イントロダクション	西洋経済史で学ぶこと、成績評価等の解説			
第2回	古代～中世				
第3回	中世～近代				
第4回	絶対主義 重商主義				
第5回	グローバリゼーション 大航海時代				
第6回	産業革命前の各国の状況				
第7回	第一次産業革命				
第8回	帝国主義	パックスブリタニカ			
第9回	第二次産業革命				
第10回	第一次世界大戦から第二次世界大戦前				
第11回	第二次世界大戦				
第12回	第二次世界大戦後	新しい国際秩序			
第13回	近代の世界経済				
第14回	現代の世界経済				
第15回	総復習	学生の理解が低い箇所について解説			
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	集中講義受講前に新聞、TV やネットニュースで経済に関することに注意を払い、疑問点を持つ。(0.5 時間) 1 日の講義 5 回分について、翌日確認のためのミニテストを行う。受講生は、特にキーワードについて簡単に記述できるように復習して置くことが求められる。(1.5 時間程度)				
履修条件 受講のルール	地理、マクロ経済学、ミクロ経済学を履修していることが望ましい。これらに関する基礎知識は理解しているものとして講義を進める。 適宜資料を配布するが、事前に連絡なく欠席した学生には原則後での配布はしない。				
テキスト	適宜資料を配布する。				
参考文献・資料	大塚久雄 2001 年 『欧州経済史』 岩波書店 川勝平太 2003 『経済学入門シリーズ 経済史入門』 日経文庫 日本経済新聞社				
成績評価の方法	ミニテスト(40%)、定期試験(60%)の結果を元に総合的に判断する。				

	<p>出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けられない。</p> <p>出席確認時(授業開始時)に不在の場合は、原則として欠席とする。</p> <p>授業中に無許可で退出した場合は欠席とする。</p>
オフィスアワー	集中講義期間中の休み時間等は自由にコンタクト可能。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	<p>歴史は「過去の教訓」を学ぶことであり、現在の世界経済の中心の一つで、過去に第一次、第二次の大戦後奇跡的に短期間で復興・発展を遂げたイギリスや EU 諸国の発生から現代までの変化を学ぶことは今後の社会人生活に役立つことが多い。大いに関心を持ち、ニュースなどにも注意を払うことが望ましい。</p>